

学校だより

さいたま市立いろどり学園小学部・中学部

令和8年4月30日発行

第2号

人としての強い根

校長 米玉利 優子

「校長先生、Aさんは1人で駅まで帰るのですよね。じゃあ、待っています。」下校の見送りをしていた私に、中3の男子が声をかけてきました。体調を崩したAさんのことを心配してくれていたようです。周囲には小学生も2人いて、お兄さんと一緒に帰るのだと嬉しそうに教えてくれました。体調が快復し、帰りの準備をしていたAさんに、一緒に帰ろうと待っている人がいることを伝えると、Aさんは、「大丈夫だよ、先に帰っていいよ。」と彼らに伝えたのです。でも、皆は帰りませんでした。そして、10分ほど待って、Aさんも少し照れくさそうに笑顔で…皆と一緒に帰っていきました。「帰っていいよ」と言われてもなお、なぜ子どもたちは、先に帰らなかったのでしょうか。

「校長先生、うちの子は何も話さないのですが、今朝、ちょっと泣いていたので様子を見ていただけますか。」Bさんの保護者が心配そうに教えてくださいました。キャンパスまで送ってくださる道中、Bさんも保護者の方もどんな気持ちだったのかなと思うと、胸が締め付けられ、すぐに、教室に行ってみました。すると、「となりに座ってもいい？」とBさんに声をかけている女の子がいます。Bさんは、少し驚いた様子を見せながらも頷いています。その日、Bさんにいつもより、たくさんの笑顔が見られたことは、言うまでもありません。Bさんに声をかけた女の子は、「Bさんの目に涙がたまっていて、不安なのかなと思ったので、初めて声をかけました。」そうゆくりと話してくれました。登校してきた仲間の様子を見ている。そして、初めて声をかける。このあたたかい心(ばり)と勇氣はどこから生まれたのでしょうか。私たち大人はできているのかと、自分に問うた日になりました。

自分も1人で家に帰った時、寂しい思いをしたことがあるのかもしれませんが。登校する時に、自分も不安で泣きたい気持ちになったことがあるのかもしれませんが。その想いが「人としての根」となり、自ら考え、動く「考動する力」となっているのだと感じ、いろどり学園に通ってくれるこの子どもたちを、心から誇りに思い涙が溢れた4月でした。「人としての強い根」を育てるには、様々な体験が必要だと確信しています。子どもには、嬉しいこと、楽しいことはもちろん、悔しいこと、辛いこと等心を震わせる体験さえも大切なものであると感じています。「校長先生、子どもがケンカをしてくれて嬉しいです。学校に行かれなかった時は、人とぶつかる体験もしていません。学校に行かれている証ですから。」キャンパスで言い争いがあった報告をした際に、そう話してくださる、強くあたたかい保護者がいることもいろどり学園の誇りです。今月も各キャンパスが多くの方にとって安心できる居場所となるように、子どもたちの強い根を育てられる場所となるように、教職員一同、心を一つに努力してまいります。保護者の皆様には、あたたかいご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。どうぞ楽しい連休をお過ごしください。